

全苗連だより

Vol. 43 (2月号)

平成30年2月26日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

平成29年度林業用種苗需給調整協議会の概要 苗木の総需要量はやっと底を脱した模様、 コンテナ苗は生産量、需要量とも引き続き増加

平成29年度の地区別山林種苗需給調整協議会は、北から順に北海道・東北地区が11月13日山形市、関東地区が2月14日前橋市、東海・北陸地区が11月7日名古屋市、近畿地区が11月21日津市、中国地区が12月1日岡山市、四国地区が12月21日高知市、九州地区が11月16日福岡市において、林野庁・森林管理局、都道府県、林木育種センター、森林整備センター、都道府県苗組、県森連等の関係者が多数出席して、種子・穂木や山行苗木の需給実績と需給計画、造林計画と山行苗木の需給見込量等について協議が行われました。

また、この協議会においては、種子・穂木や山行苗木の移出・移入の可否並びに広範囲な需給調整のあり方、コンテナ苗生産の取組み状況、特定母樹・花粉症対策品種の生産見込み、優良苗木の安定供給に向けた生産体制支援対策及び担い手対策等についての国・都道府県への要望事項等について熱心な話し合いが行われました。

需給の動向について、第1表に地区別の、第2表に樹種別の需給見通しを掲載しました。

第1表 地区別の山行苗木の需給見通し

(単位:千本)

地区	需給見通し(H29秋~H30春)			需給見通し(H30秋~H31春)		
	生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足
北海道	19,219	16,448	2,771	21,244	17,045	4,199
東北	9,831	9,818	13	10,508	9,945	563
関東	6,564	5,923	641	5,669	5,658	11
中部	2,514	2,062	453	2,777	1,946	831
近畿中国	5,937	5,732	205	6,652	5,425	1,227
四国	2,130	1,921	209	2,120	2,097	23
九州	14,410	14,144	267	14,730	13,908	823
計	60,604	56,047	4,558	63,700	56,022	7,678

第2表 樹種別の山行苗木の需給見通し

(単位:千本)

樹種	需給見通し(H29秋~H30春)			需給見通し(H30秋~H31春)			
	生産量	需要量	過不足	生産量	需要量	過不足	
スギ	総数	21,620	23,842	△2,222	22,842	24,054	△1,211
	(うちコンテナ苗)	6,221	7,117	△896	6,975	7,713	△738
	うち花粉対策	9,928	9,978	△51	10,577	9,713	864
	(うちコンテナ苗)	2,256	3,280	△1,024	2,490	3,037	△547
ヒノキ	総数	8,080	6,873	1,207	8,312	6,659	1,652
	(うちコンテナ苗)	1,362	1,017	345	2,013	1,650	363
カラマツ	総数	13,366	13,709	△343	15,590	14,828	762
	(うちコンテナ苗)	963	1,376	△413	1,010	1,518	△507
クロマツ	総数	3,321	2,479	842	2,997	2,249	748
	(うちコンテナ苗)	2,425	1,908	518	2,140	1,837	303
小計	総数	46,388	46,903	△516	49,741	47,790	1,951
	(うちコンテナ苗)	10,972	11,417	△446	12,139	12,718	△579
その他	総数	14,217	9,143	5,074	13,959	8,232	5,727
	(うちコンテナ苗)	266	350	△84	343	606	△263
計	総数	60,604	56,047	4,558	63,700	56,022	7,678
	(うちコンテナ苗)	11,238	11,767	△530	12,482	13,324	△842

なお、都道府県ごとの数値は、全苗連ホームページにて情報連絡する予定にしております。

山林種苗の需給関係は、昭和40年代初頭の13億本が右肩下がりであり下がり続けて50年余、ここに来てやっと底を打った(H25/56百万本、H26/57百万本、H27/61百万本)ところです。これまでの需給調整会議の議論の中心であった残苗対策が影を潜め、①裸苗からコンテナ苗への切り替え、②特定母樹由来や花粉症対策苗木の供給、③カラマツの増産等、時代のニーズに対応するものとなってきています。

全苗連のホームページを一新しました

全苗連のホームページをリニューアルしました。新着情報や行事・研修予定等が随時更新できるようになり、会員の皆様から地域の情報や技術情報などをお寄せ頂けましたら、「インフォメーション(公開情報)」欄または「会員向けページ(パスワード管理による会員限定の情報交換の場)」欄にて、紹介できるようになりましたのでご活用頂きたいと思っております。

林木育種事業60周年記念シンポジウムが開催され、岸紘治全苗連会長がパネリストとして参加しました

森林総合研究所林木育種センターの前身である国立林木育種場が昭和 32 年に設立されて、今年度で 60 周年を迎えたことを記念し、林木育種事業 60 周年記念シンポジウムが開催されました。全苗連からは岸紘治会長がパネリストとして参加されましたのでシンポジウムの概要を紹介します。

2 月 16 日（金）に東京都江東区の木材会館において、国、都道府県、大学等研究機関、関係団体等から 214 名の参加者を迎え、「豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種」をテーマにして開催されました。

シンポジウムでは、森林研究・整備機構理事長 沢田治雄氏による主催者挨拶の後、林野庁森林整備部長 織田央氏より来賓挨拶がありました。また、東京大学教授の井出雄二氏からは、「再造林時代の林木育種」をテーマに基調講演が行われ、林木育種は、持続的林業経営を種苗の側面から担保する技術であり、基盤材料を提供する事業。今後は、新しい林業を生み出すような種苗が必要と述べられました。

林木育種センター・育種場からは、成果発表として、「これまでの品種開発の取組」「林木育種の次世代化に向けて」「林木ジーンバンク事業の成果と今後の方向」等、各研究分野の研究者から 8 課題について、発表がありました。

最後のパネルディスカッションでは、「豊かで多様な森林の恵みを未来につなげる林木育種」をテーマに、岐阜大学教授の向井 譲氏をコーディネーターに 5 名のパネリストの皆様（全国林業試験研究機関協議会会長 網田克明、全国山林種苗協同組合連合会会長 岸紘治、東京大学大学院准教授 後藤晋、林木育種センター育種部長 星比呂志、林野庁研究指導課長 森谷克彦）により、それぞれのお立場から林木育種事業への関りや期待すること、育種技術の普及など、今後の林木育種のあり方などについて幅広い観点から議論が行われました。

特に岸会長からは、林木育種センターが行ってきた「林木育種事業」は、生産の原点であり、その原点である種子



会場の様子



東京大学 井出教授の基調講演



パネルディスカッションの様子



や穂木の価値を高めてくれる大切な事業であるとして、とりわけ、

- ・ 精英樹選抜（今ではスギ、ヒノキの約7割が「育種苗」）
- ・ 松枯れ対策としてマツノザイセンチュウ抵抗性品種や雪害等に強い品種の創設
- ・ 花粉症対策として、花粉の少ない品種の創出

などが、主要な成果と承知していること。

これらの研究成果を更に発展させるとともに、生産量が増加しつつあるコンテナ苗に関連してコンテナ栽培にも適した品種の開発等への期待と要望についても発言されました。

全苗連・苗組の行事予定

～H30.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会 ②コンテナ苗生産新規参入者を対象とした研修会 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導等 実施者;該当道県苗組

2月14日 関東地区林業用種苗需給調整協議会(群馬県)

2月16日 林木育種事業発足60周年記念行事(森林総合研究所林木育種センター)

2月22日 原木安定供給シンポジウム(日本木材総合情報センター)

2月23日 一般社団法人日本林業協会第5回定時総会(法曹会館)

3月23日 第36回林業退職金共済事業関係運営委員会(コープビル)

3月23日 一般社団法人林業薬剤協会第3回理事会(学士会館)

5月11日 全苗連理事会

5月25日 全苗連通常総会

9月 6日 全苗連生産者の集い(岡山コンベンションセンター)

～7日